

「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」県民説明会 船橋会場 2回目

- 1 日 時：令和7年7月15日（火曜日）午後6時30分から午後8時25分まで
- 2 場 所：船橋市三咲公民館 講堂
- 3 内 容：「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」の説明と質疑
- 4 参加者：17名
- 5 主 催：千葉県教育委員会

意見聴取の概要

Q 八千代、習志野、船橋などの学区で考えれば、人口は微増しているが、学区としての対応はどのように考えているのか。

A 卒業者の推移につきましては、推計データをもとに、学区というくくりの中でも分析しております。第2学区については、推計を見てみると、緩やかな減少傾向となりますが、年によっては増えることもあります。長い目で見ると、令和17年度には、学区全体で現在より1,500人程度減少し、船橋市では、600人程度減少するという推計です。

Q 統合校に情報系の学びを入れるとのことだが、近隣の東京学館船橋高校に情報系の学科がある。千葉県全体として、私立と公立の適正配置について、どのように考えているのか。

A 私学無償化により、中学生にとって高校の選択肢が広がるということはいいことでもあります。ただし、県立高校が衰退することになれば選択肢を減らすことになってしまいます。私学無償化が始まることにより、県立高校の存在意義がますます問われており、県立高校が引き続き、魅力的な選択肢としてあり続けられるよう、向上を図っていく必要があります。私学とは協調して、互いのよいところは参考にしながら、千葉県の子どもたちのためによい学びの環境を築いていく関係だと考えております。高校や学科の再編を検討する際には、私学の動向や学びについても分析しております。船橋の統合校についても、eスポーツや福祉などの学びについて情報を収集して分析しているところです。

Q 厳しい家庭環境で生活する生徒もいることなど公立高校の現状を知ってほしい。私立との問題もあるが、子どもたちを中心に考え、安心できる場所を作ってほしい。

A 金銭的に厳しい家庭もあることは承知しております。県立高校は、学びたい生徒に学びの場を保障していくことが役割だと考えています。私学は都市部に多いですが、県立高校が県内のどこであっても学ぶ場を提供する、それが県の仕事だと思っています。そして、普通科だけでなく、専門学科の学びを取り入れるなど、幅広い学びを提供することを計画しています。

Q スライドの見せ方について、統計的な部分で、縦軸と横軸を比較できるようわかりやすいものにしてほしい。社会増減なども調査していないのではないか。

A 人口の推計などについては、社会的な流入や社会増減なども考慮し、検討しております。全国的に少子化は進んでおり、中学校の卒業生数が減少していくことは間違いないと思います。

Q 八千代西高校において、来年度の募集定員や学びの多様化学校のことなど決定していないことに関して管理職から夏休みの課題として提示されたが、どういうことか。

A 来年度の募集学級数は、現時点では未定です。事実関係を確認いたします。

Q 統合校において、総合学科の通常科目と専門科目は何単位で考えているのか。そもそもなぜ、e

スポーツなのか。豊かな学力を育むという観点から魅力ある学校づくりの感覚が現場とずれているのではないかな。

A eスポーツやプログラミングを何単位にするかなどについては、正式にプログラムが決定した後に、統合準備室を設置し、令和10年度からの教育課程について議論していくことになります。また、eスポーツの学びをきっかけとして、情報の教科の学びに興味関心をもってもらえればよいと考えています。全国的にも成功している事例もありますので、研究をしているところです。

Q eスポーツに必要な施設は、整備できるのか。

A eスポーツにいくらの予算が必要であるかなどについては、詳細な積算をしておりませんので、現時点では把握していません。

Q 八千代の統合校について、2つの学校は学力差がある。ウェルビーイング・ハイスクールを導入しても八千代東高校の生徒には合わないのではないかな。

A ウェルビーイング・ハイスクールというのは、居心地のよい学校をつくるということです。学力などに関係はなく、子どもたちにとって居心地のよい空間をつくり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを重点的に配置し、子どもたちの悩みを受け止める体制を整備していくことを目指しています。そのような学校を八千代の統合校に継承していくということです。

Q スライドで示している総合学科の紹介の中で、算数と表記されているのはどうしてなのか。

A スライドの図については、文部科学省の総合学科に関するパンフレットから引用したものになります。後日、文部科学省に算数の表記の意図について確認をとりたいと思います。
※文科省に確認し、「算数」表記については、「数学」に読み替えることとします。

Q 少人数学級を実施できないのか。

A 少人数での学びが充実したものになるということは承知しています。学級編成については、国のいわゆる標準法という法律があり、1学級の学級編制は、40人を標準とするとなっているため、それに基づいて実施しています。習熟度別学習や配置された教員で対応する少人数の学びなどにより、個別最適な学びを展開していくことは大事な視点だと思っています。

Q 船橋豊富高校の周辺の環境を整備して、それを生かした教育を考えてほしい。

A 学校の周辺に教育資源があることは、学校にとって魅力的なことです。今後、学校とうまく連携をとり、子どもたちの学びに取り入れられるように検討していきたいと思っています。

Q 船橋豊富高校が避難場所となっていないのはなぜか。

A 避難場所の指定については、船橋市で行っているため、県としてはお答えできません。船橋市の担当課に確認をとっていききたいと思います。

Q 25人学級の決議があったはずだが、なぜ少人数学級をせずに学校をなくすのか。

A 標準法で1学級の学級編制は、40人を標準とするとなっているため、国から措置された定数をもとにして学級編制を行っており、40人を下回る学級編制は非常に困難であると認識しています。統合にするにあたっては、一定の規模の生徒集団を確保し、学びの場を整えていけるように取り組んでいます。

Q 予算はあるはずだが、なぜ少人数学級をやらないのか。予算がないから、学校をなくすのか。

A 少人数学級を展開するうえで、教員の配置が必要となります。国から配置される教員の数では足りません。現在、県の予算では教員の確保ができていないため、展開することは難しいです。また、統合することについては話が別になります。一定の規模、生徒集団が必要であると考えています。学校行事や生徒会活動、部活動など多くの仲間と触れ合いながら切磋琢磨して、生きる力や人間性を育むことができるように検討しているところです。

Q 公立と私立の会議で、平成27年から比べると公立の募集定員が減っているが、私立は増えているのはなぜか。

A 毎年、公立と私立の募集定員については、中学校の卒業生数や進学状況などを検証しながら協議をして決定をしています。

Q 適正規模という話があるが、私立についてはどうなっているのか。

A 私学の中にも大規模校があります。公立でも学級数が大きな学校もあります。適正な規模のあり方など、今後の募集定員については、学校の置かれている状況を鑑み、協議、検討してまいりたいと思います。

その他意見

○進路指導をきちんとしてほしい。また、教員の不祥事が多く、恥ずかしい。千葉県は、教員が自覚をもって取り組んでほしい。

○統合校において、経験を踏まえ、学校を変えていくのは現場の教員であるため、現場の声を聞いてほしい。また、現場の教員に時間的な余裕を与えてほしい。

○卒業生が悲しい思いにならないよう配慮してほしい。